



厚生労働省が2021年2月に発表した外国人雇用届出状況によれば、20年10月末で日本国内のベトナム労働者数は約44万人で、国籍別で中国を抜いてトップに立った。日本にいる友人からも、「最近ではコンビニエンスストアのレジには『ロン』『クック』『フォン』といったベトナム人と思われる名札をよく見かける」という話を聞く。

取引先企業から、ベトナム人技能実習生の受け入れの相談も多いことから、オンライン授業に切り替わる前にベトナム・ホーチミン市内の日本語学校を訪ねてみた。生徒は全員で30人と小規模な学校だが、「日本が大好き」という生徒に囲まれ、いきなり臨時講師を

ベトナム向けビザ発給停止

引き受けることになった。日本語でのコミュニケーション能力を高めるために、10分間と短い時間ながら先生はこの出身ですか？」「ベトナム人をどう思いますか？」などと、矢継ぎ早に質問を受けた。南国の蒸し暑さに加え、緊張の汗を背中にかいた。

ベトナムの新型コロナウイルス感染状況は、他の東南アジア諸国連合(ASEAN)の各国の状況に比べれば感染規模は小さく、新型コロナウイルスの抑制に成功したと思われたが、4月下旬以降、第4波の市中感染者が急増。7月末で14万人を超え、第1〜3波を上回る勢いで感染拡大が続く状態に陥った。在ベトナム日本総領事館では、ベトナム人向けの日本滞在に必要なビザ発給の受け付け業務

技能実習生、来日に遅れ



日本語学校で生徒の質問に答える筆者(左)
＝ベトナム・ホーチミン市

を一時的に停止した。私が訪ねた日本語学校でも、技能実習生として岐阜のプラスチック成型工場で働く予定だったチン

さん(23)が、ビザの発給待ちとなり、入国時期が遅れている。チンさんはこうした状況にもかかわらず、受け入れ企業が求める日本語検定5級を取得した。実家に戻り、4級取得に向けた学習に取り組んでいると聞く。日本で働きたいという強い思いを感じる。

今春、ベトナム人の知人が北海道の農場でボラバイト(ボランティアとアルバイトを合わせた造語)を1カ月間体験した。農場主からは「例年、海外からの労働者に助けられているが、コロナ禍で外国人が来てくれない」と待ちわびる声を聞いた。日本で働きたい外国人と、外国人労働者抜きでは事業継続の見通しが立たない日本人経営者。互いの意向が一致している中で、まずはコロナ終息が互いの願うところではないだろうか。

(岐阜信用金庫市場国際部・ベトナム投資開発銀行出向 高木一輝)